

南高図書館だより

2023 年 12 月号
浦和南高校図書館

図書委員のおすすめ本



『噂』

荻原浩／著 新潮社

犯人を特定するまでの過程で、いろいろな人の視点から書かれているのでとても面白く、様々な人の視点から描かれる小さなヒントが最後には全てが繋がるため、パズルのピースが最後にはぴったりと当てはまるような爽快感を得ることができます。推理をしながら読むのも、全てを知った上でもう一度読むのもどちらも楽しい。そしてこの本を読んだ人にしか分からない大どんでん返しがあるので、ぜひ読んでみてください。

『風に恋う』

額賀滯／著 文藝春秋

「死ぬときは、今日のことを思い出したい」かつては3年連続全国大会出場、マスコミにも頻繁に登場した名門高校吹奏楽部に入部した基。コーチの瑛太郎はあろうことか基を部長に指名した。嫉妬とプライド、受験へのプレッシャーを乗り越え全国大会へと復活できるのか…。



『変身』

東野圭吾／著 講談社(講談社文庫)

大人しく勤勉な性格で、絵を趣味にしている成生純一は拳銃で撃たれ世界で初めての成人脳移植手術を受けた。回復してくはずだったが、自分の感性がガラリと変わり、性格や行動が凶暴化していった。

変わっていく人格の様子や結末がとても面白いです。ドラマ化や映画化もしているらしいのでぜひ読んでみてください。



図書館からのお知らせ

◆イベントのお知らせ その1◆

冬の読書キャンペーン

「しおりで推す わたしの おすすめ本」

図書委員が選んだオススメ本と手作りしおりを、館内で展示しています。

年末年始に読む本を探している人、おすすめ本のPOPを見るのが好きな人、ぜひ図書館まで見に来てください。

◆イベントのお知らせ その2◆

雑誌リサイクル&付録頒布 実施中

12/18(月)から、図書館内で、雑誌リサイクルを実施しています。

図書館での保存が半年を過ぎた雑誌を、リサイクルとして希望者に差し上げます。同時に、雑誌の付録ポスター等も頒布しています。

先着順なので、欲しい雑誌がある人はお早めに！

返し忘れの本、ありませんか？

学期末です。

返却期限が過ぎたまま、返し忘れていた本はありませんか。

心当たりのある人は、きちんと返却して、

気持ちよく冬休みを迎えましょう！



新着図書PICKUP

11月に新しく入った本

知識の本

ケアしケアされ、生きていく

竹端寛／著 筑摩書房(ちくまプリマー新書)

ケアは「弱者のための特別な営み」ではない。本書では「二十歳の大学生」「六歳の女の子」「四十八歳の著者」の三者が生きる世界を通して、ケアを定義し、ケア中心の社会について考えていく。お互いが思いやる社会を実現するためにできるたった一つのことを、読者と考え合う本。

つながり続けるこども食堂

湯浅誠／著 中央公論新社

全国に増え続けている「こども食堂」。「誰でもどうぞ」と作られた「こども食堂」には、子どもも大人も気楽に立ち寄れて、人とつながることができる。「子どもの貧困対策」だけでなく「地域交流拠点」の役割も担っているという「こども食堂」の現場の雰囲気や、実態に基づいて伝える。

ようこそ！富士山測候所へ 日本のてっぺんで科学の最前線に挑む

長谷川敦／著 旬報社

富士山の山頂にある「富士山測候所」。日本のてっぺんにある測候所の歩みと無人化が決定した時に施設を守ろうと立ち上がった科学者の物語と、ここでしかできない研究の魅力について。

道草を食む 雑草をおいしく食べる実験室

Michikusa／著 CCCメディアハウス

意外と知られていない身のまわりの食べられる雑草。タンポポジャム、ドクダミ餃子、野生のあんころもち、ヨモギのポタージュスープなど、雑草のおいしいレシピと活用法を季節ごとに紹介。

こども法医学 親子でなっとく！事件をかいぼう！

岩瀬博太郎／著 ライフサイエンス出版

死因を究明する法医学は、いま生きている人の安全や権利を守るためにある。事件や事故、病気を見逃すことは、新しい犠牲者を生み出す原因になってしまうから。しかし、現在の日本には法医学者と呼ばれる医師は150人程しかいない。法医学の第一人者が、法医学の世界を解説。

もっと！とんでもないお菓子作り

江口和明／著 ワニブックス

バターなし「いちごのスコップケーキ」、材料は3つだけ「とろけるチョコレートムースケーキ」など、見た目も美しく、おいしいけれど、無駄な工程は省いたお菓子のレシピ。全工程写真つき。

3年間ホケツだった僕がドイツでサッカー指導者になった話

中野吉之伴／著 理論社

高校三年生のとき雑誌で見つけた「ドイツサッカースクール」の募集要項がきっかけで、現在ドイツで指導者をする著者の、好きなことをあきらめずにのがき続けた今までの道のりを綴る。

図解でわかる時事重要テーマ100 2024-2025

日経HR編集部／編著 日経HR

国内外の重大ニュースや政治経済等に関する重要キーワードを、全9章100テーマに分類し、ひとつのテーマを見開きで解説。図を多用し、わかりやすく伝えてくれる。巻頭の重要テーマセレクト10には、「ウクライナ侵攻の長期化」や「生成AI・ChatGPT」など。受験対策にも使えます。

小説・文学

歌われなかった海賊へ

逢坂冬馬／著 早川書房

1944年ナチス体制下のドイツ。密告により父を処刑された少年ヴェルナーは、「エーデルヴァイス海賊団」を名乗るエルフリーデとレオンハルトに出会う。彼らは、まるで単色のペンキで塗りつぶすように一国を単一の思想で統一しようとする体制に反抗していた。市内に敷設されたレーンを不審に思い、辿っていった先で「究極の悪」を見たヴェルナー達は、ある計画を実行する。

リカバリー・カバヒコ

青山美智子／著 光文社

公園の古びたカバの遊具に触れると、治したいところが回復するという。人呼んで「リカバリー・カバヒコ」…「カバだけに」。噂を聞き、公園を訪れた人たちは、カバヒコに悩みを打ち明ける。

宙わたる教室

伊与原新／著 文藝春秋

新宿の都立高校の定時制に通う、読み書きが苦手な元不良の岳人。一年間通学したものの状況は変わらず、退学を考えていた時、新担任の藤竹から「科学部」の立ち上げに誘われる。年齢も抱える事情も様々な生徒たちを巻き込みながら、「科学部」は、ある学会の高校生部門で発表するため、火星のクレーターを再現する実験を始める。実話から生まれた物語。

レーエンデ国物語〔3〕喝采か沈黙か

多崎礼／著 講談社

「レーエンデ国」の壮大な歴史を描くファンタジー第三弾は、天才的な脚本家の兄と、男娼で俳優の弟という双子の兄弟が、芸術を武器に戦う革命の物語。2024年に刊行される四巻と五巻でシリーズが完結することが決まっている。現在「レーエンデ国」の革命の物語は折り返し地点。国を興すまでのレーエンデの人々の歴史を見届けましょう。いざ、銀呪の森へ。

文庫本

キリエのうた

岩井俊二／著 文藝春秋(文春文庫)

歌うことでしか声の出せないシンガー「キリエ」。謎多き女「イッコ」。二人と数奇な縁で結ばれる夏彦。キリエはイッコのマネージメントで路上ライブを重ねるも、突然イッコが姿を消す。別れと出逢いを繰り返しながら奏でられる音楽と、紡がれていく人生の物語。映画の原作小説。

哲学のモノサシ 考えるってどんなこと？

西研／著 河出書房新社(河出文庫)

人間とはモノサシである。物事や他人やじぶんに、すき・きらい、よい・わるい、きれい・きたないというふうに色々なモノサシを当てている。一人ひとりがじぶんのモノサシを点検・修理する力を鍛えるにはどうしたらよいか。哲学すること、考えることについての入門書。